

【緑で結ぶ心の輪】



Vol. 58 (平成25年6月)

埼玉グリーンアドバイザーの会 広報委員会

〒336-0035 さいたま市南区松本 2-1-13 柴田園芸刃物(株)内 事務局

TEL : 048-864-2311 / FAX: 048-864-2355

事務局メールアドレス

s-ga0329@s-greenadviser.org

埼玉 GA の会ホームページ

s-greenadviser.org

『研修報告』 「彩湖自然学習センター見学と田島ヶ原さくら草自生地散策会」

平成25年4月12日(金) 午後13:30~15:30

戸田市内谷にある彩湖・道満グリーンパーク内の彩湖自然学習センターに参加者19名が集まりました。

ここは当会の理事で石川正之氏の勤務先でもあります。今回の案内役と講師もお願いした石川氏の説明から始まりました。彩湖とは、江戸時代に江戸の町を荒川の洪水から守る貯水池の堤防として作られていましたが、昭和55年から国が荒川調節池総合開発事業として洪水防御と首都圏への水道用水の供給を目的とする事業が始まり平成9年に現在の荒川第一調節池になったそうです。この中に彩湖や道満グリーンパークがあります。学習センターでは親水ゾーン・自然保存ゾーン・野外活動ゾーンにいる野鳥や、植物に付いての展示説明がされています。



(田島ヶ原)



(ノウルシの中にサクラ草)

この敷地面積はのべ667,000㎡と広大なため特別に車で移動しながら、希少植物の自生地を案内していただき説明を受けました。広大な敷地には沢山の野鳥や植物があり、またテニスコート、野球場など施設が充実していて年間利用者数100万人と伺い色々な楽しみ方の出来る場所である事がわかりました。

その後石川氏の先導で各自の車で田島ヶ原に移動。

このさくら草は大正9年に特別天然記念物に指定され、白花さくら草の園芸種はここにあった花から作られたそうです。全体としてはノウルシなどの中にさくら草があり、立ち止まりながらじっくり観察しました。ナルコユリとアマドコロの違い(茎の形)などなど皆さんからの質問も多くとても勉強になりました。時間が遅くなった為、田島ヶ原で解散となりました。

この研修で調節池全体に係わる事として、自然を作っていく事は大変な事だと感じました。とても素晴らしい所です今回参加できなかった方は是非一度は足を運んでみてください。

(記事 中緒知和子)

【当会の動き】

- 1月19日：理事会 総会準備
- 2月 2日：平成25年度 総会&研修会
- 2月22日：GA埼玉57号発行
- 3月22日~24日：F&Gショー参加
- 4月12日：第2回研修会
- 5月30日：第3回研修会

『研修報告』 「ザ・トレジャーガーデンを管理の裏側から見学」

日 時： 平成25年5月30日(木曜日)

場 所： THE TREASURE GARDEN 館林

講 師： 東武緑地(株) 銀座花事業部 ガーデン事業課 課長 五嶋泰河氏

あいにくの小雨で且つ館林という埼玉からは遠方の地でありながら、今回は29名もの方に参加頂きました。現地を施工管理されている東武緑地の銀座花事業部の五嶋さんから全体8万㎡のうち1万㎡がローズガーデンの敷地に充てられており、バラと宿根草とアクセントに樹木を配置しており、全体コンセプトは“Happy Share”そして光・水・音でシーン演出しているとポイント毎に説明して頂きました。



(挨拶する杉浦会長と講師の五嶋さん) (ポールヒマラヤンムスクのトンネルをくぐる) (次のシーンへは小さなアーチをくぐる)

まず石造りのエントランスを入ると一気に視界が広がり、そこには水路をメインにボーダー花壇が広がっていてバックの樹木とのマッチングが絶妙です。ボーダーの宿根草は生育に差があり植替えを繰り返しながら今の形になっているとのこと。宿根草とは言え見せるという点ではメンテは欠かせないようでバラと相性の良いクレマチスも効果的に配置されています。次にポールヒマラヤンムスクの大きなトンネルを超えると奥にはイングリッシュローズやスタンダード仕立てのバラとともに芝生が広がります。随所にアクセントとして使用される樹木の形や色合いもセンスが良く自分の庭にも使いたくなります。花の管理は20名程で行われており、バラについては病気が出ないように常に気を付けて管理しているとのことでした。一通りの見学が終わった後食事を頂き、最後に中世ゴシック様式を基調とした『聖ペテロ&パウロ教会』で記念写真を撮って解散しました。

(記事 矢野 信行)



(100mにも及ぶボーダーガーデン) (雨でも手入れを欠かさないスタッフ) (聖ペテロ&パウロ教会で記念撮影)

【研修会のお知らせ】

柳下和之氏（園芸研究家）による 「山野草の楽しみ方」 パートⅨ」

植物多様性を知る・守る・伝える「筑波実験植物園」散策日帰りツアー

7月6日（土）雨天決行

＊コシガヤホシクサを初めとする様々な絶滅危惧植物やユニークな多肉植物と出会えます。柳下氏によるユニーク楽しい解説付きです！

ミュージアムショップでオリジナルグッズもお求めになります。必見です！

（研修担当：間室伸子）



【イベント情報】

「江戸の園芸文化」特別 7月30日～9月1日



江戸東京博物館の開館 20 周年記念特別展として「花開く、江戸の園芸」が7月30日～9月1日、江戸東京博物館（東京都墨田区）で開催される。江戸時代の園芸は「日本人のいちじるしい特色は、下層階級でも みな生来の花好きであるということだ」（ロバート・フォーチュン「幕末日本探訪記 江戸と北京より）」というように、全国民が愛していた。

8月10日（土）園芸文化協会副会長 小笠原左衛門尉亮軒氏の講演があります。

▼<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>

環境省「みどり香るまちづくり」企画コンテスト

環境省 水・大気環境局 大気生活環境室で素敵な企画コンテストを募集中！

「あなたのまちも『みどり香るまち』にしませんか？」

昨年は受賞9団体へ香りの樹木・草花をプレゼントし、コンテスト開始から7年間で、全国37箇所の“みどり香るまち”が誕生した。主催：環境省。

表彰は、環境大臣賞、におい・かおり環境協会賞、日本アロマ環境協会賞、日本植木協会賞には副賞として100万～30万円が授与され、入賞5点も副賞がある。

募集期間は10月11日（金）まで（当日消印有効）

対象は、地方公共団体、民間企業、学校法人、商店会、町内会等の住民団体やNPO等の各種団体、個人など

▼http://www.env.go.jp/air/akushu/midori_machi/

【柳下 和之氏（園芸研究家）のコラム 第15回目】

ガガイモ

明るい河川敷や空き地などに普通に生えるツル植物ですが、一般の人への知名度はやや低いような気がします。しかし真夏の花が少ない時期に咲くと言うのは貴重な性質ですし、うまく選抜すれば園芸植物として昇格出来るのではとも思っています。

（新芽は食用にも出来るし、最近流行り緑のカーテンにも良いかもしれぬ！）

ガガイモ科の仲間には個性的な園芸植物が多くあり、普通に綺麗なマダガスカルジャスミンや切り花で人気のブルースター、フウセントウワタ、サクラランなど人気のある園芸植物が名を連ねており、血筋として恥ずかしくないはず。

よく観察すると花付きの良い個体、花が大きい個体、花色が濃い個体など微妙ですがバリエーションがあるので後は根気で選抜すれば・・・自分に根気が無いので誰かチャレンジしてみてください。（責任は取れませんが）

しかしそもそもガガイモと言う名前、変な名前ですよ、由来には諸説あるそうですが、古名のカガミはしゃがむという動作を意味していて、「かがむような低い所に太い茎(芋)がある」ところから「カガミイモ」→「ガガイモ」になったと言う説。ガガはスッポンの事で、葉の形が亀の甲羅のようで、芋に似た実を付ける事から「ガガイモ」になったとする説。また日本神話にも登場していてスクナビコナの神がガガイモの種のサヤを船代わりにして登場、この船の名が「天之蘿摩船(アマノカガミノフネ)」でこの時点でガガイモが「蘿摩(カガ)」と呼ばれていますから何処かでイモがくっついたのかも知れません。

何気に日本人とは神話の世界から付き合いのあるガガイモ、真夏に出会ったら良く見てあげる事をお勧めします。



【新入会員の紹介】

山本 美香さん 和光市在住（11-828） どうぞよろしく！

【編集後記】

記念すべき「父の日」も終わり、アジサイが似合う本格的な梅雨のシーズンになりますが、厳しい暑さもそこまで来ている感じがします。今回は、4月と5月に実施した研修会の報告が中心となりました。お陰様で、研修会の参加人数も20名、30名と多くの方にご参加して頂いています。これからも大勢の方にご参加頂ける研修会を企画していますので、是非ご参加いただきますようお願いいたします。広報紙の発行が遅れ気味で申し訳ありません。次号は、9月の発行を予定しています。新しいアイデアやご意見などお待ちしております！

*会員の皆様には、お身体にご自愛ください！